
自伝 龍夜の生涯

龍夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自伝 龍夜の生涯

【Nコード】

N5187P

【作者名】

龍夜

【あらすじ】

私の自伝です。

過去のこと、今のことをありのままに書いていきます。

駄文で見苦しいかとは思いますが、気の向いたときにでも、感想をいただけると有り難いです。

人の道、私の道

2010年12月15日（晴）

私は、1987年2月20日に千葉の幕張にある小さな産婦人科で生を受けた。

小さい頃、母は散歩のたびにアナタはここで生まれたのよと嬉しそうに語っていたが、私にその実感はなく、その乳白色のコンクリートの固まりを見上げては、ただ、ああそうなんだと思うだけだった。

小さいころの記憶は曖昧で、今確かな記憶にあるのは小学校時代のことばかりである。

幼稚園以前の記憶は恐らくは親や親戚からの後付けによるものではないかと思う。

生まれたばかりの私はしわくちゃで、母は曾祖母のことを思い出したと言う。

幼少期の私は病弱で、季節の変わり目に風邪をひき、3つの頃には小児喘息を患った。

食欲は細く、ミルクアレルギーもあったため、親の気苦労は絶えなかったそうだ。

幼稚園にあがると、友達と呼べるような子も居たが、私にしっかりとした認識はなく、ただ側に居る親とは違った存在。その程度のもだった。

むしろ、幼稚園の先生方の存在の方が今でも鮮明に覚えている。

年少時代に私のクラスを受け持った羽柴はしばという女性の先生は私に箸の持ち方を教えてくれた。

まだ、若かった彼女は、後に聞いた話ではあるが、私のクラスが初めて受け持ったクラスだったそうだ。彼女は私の卒業と同時に結婚し、幼稚園を去った。

年中時代には、相京あいきょうという先生が私のクラスの担任になった。彼女は規律を重んじる人で、その規律を乱す私をけして許さなかった。お遊戯の時間に、よく廊下に立たされ、通りかかった園長に苦笑いされることがしばしばあった。

年長時代には小林こばやしという先生が私を受け持った。彼女は相京とは違い、子ども達の自由を尊重した。

私はそれにどれだけ救われたか分からない。

今私は東京の船会社で働いている。あの頃の私が今の私を見たら何と言っただろうか。

いや、きつと実感できないのではないかと思う。だが、私が彼に伝えることが出来るなら、言葉ではなく行動で示したいと思う。

思いつきり抱きしめて、大丈夫。世界はお前に牙をむいたりなんかしないと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5187p/>

自伝 龍夜の生涯

2010年12月16日00時21分発行